

研究計画書

ゼミ名	青木ゼミⅡ	チーム名	カンドリルフィンガーズ
タイトル	大変だよ、お隣の国の学生さんは！～日本・韓国・中国の大卒就活事情～		
テーマ群	d) 国際経済		
メンバー	石橋武久 大田耕一郎 菅貴満 下村啓輔 高山健介 松井勇樹 真鍋光司 山本亮		
研究計画内容	<p>&lt;調査・研究の動機・目的&gt;</p> <p>2015 年 3 月末の日本の大卒就職率は 96.7%でした。しかし、兵役を考慮する必要のあるもののお隣の韓国の大卒就職率は 58%(ニート含む 2014 年)、高度経済成長著しい中国でも 9 割です。経済がパツとしていない日本でも、なぜ大卒就職戦線はお隣の国々に比べてよいのでしょうか？また、韓国・中国の学生さんは、猛勉強をしてもなかなか就職に繋がらないのはなぜでしょうか？その舞台裏を、各国経済事情を含めて調査・分析します。</p> <p>&lt;研究計画&gt;</p> <p>1.大卒就活制度の国際比較・・・東アジアの 3ヶ国の大卒就職制度 日本では、「新卒一括採用」という戦後に出来上がった仕組みが慣行として根付いています。他のアジアの国々ではどうでしょうか？実は韓国や中国にも似たような慣習があり、それぞれ独特の慣習があります。まず、お隣の国々における就活制度を調査・整理し、各国の雇用慣行の特徴を明らかにします。</p> <p>2.なぜ日本の大卒就職事情は改善しているのか？ GDP を見ると日本はそれほどパツとしていないのに、安倍政権発足後、失業率は 2012 年の 4.3%から 2015 年の 3.3%へと 1%低下、雇用者総数も 110 万人増加しています。しかし、増えているのはパートなどの非正規雇用です。新卒正規雇用状況の好転と、日本のマクロ雇用環境が随分と食い違っています。日本経済・社会の構造変化を調査・研究する中で、なぜ日本の大卒就活事情が近年良好なのかを考えます。</p> <p>3.なぜ韓国・中国大卒は就職難なのか？ 次に韓国・中国の大卒就職事情が悪化している背景を調査・分析します。韓国全体の失業率は 3.7%程度で決して高くないのに、なぜか 15～29 歳の若者の失業率がここ数年上昇し、10%近辺に達しています。政府の調査では、中国の都市部失業率 5.1%に対し、大卒失業率は 8%程度です。日本の若者(15～24 歳)の失業率は 5.5%ですので両国にとっては深刻な社会問題でしょう。なぜ韓国・中国では大卒の就職難がなかなか解消されないのか、その背後にある構造問題を調査・分析します。</p>		